


〈総合科学系文科〉

ブンガクを楽しむ, ブンガクで遊ぶ		
千葉 幸一郎 (CHIBA Koichiro)	chibako@sendai-nct.ac.jp	
准教授		
所属学会・協会	日本文芸研究会, 解釈学会, 日本文学協会	
キーワード	①日本文学 ②話芸	

研究課題

- 日本近代文学史における安部公房の位置付け
- 大正期における宗教小説流行の背景の把握
- 文学の中の雪に関する表現による過去の積雪量の推定

研究シーズ

筆者は大学の卒業論文以来、一貫して安部公房について考えている。彼の小説には SF 風のものも多く、また彼自身タイヤチェーンの特許を持っている発明家であることもあって、作品の中に発明品が登場することも少なくない。そこで現在は、高専という場で働く者として、彼の作品を科学技術の視点から読解することを目論んでいる。さらに個々の作品を分析することを通して、安部公房という作家を日本文学史の上にどのように位置づけるかが現在の課題である。

一方ここ数年、大正時代の文学に興味を持ち、宇野浩二や木下杢太郎といった作家たちについて小文を書いた[1,2]。現在は大正11年に起こった親鸞に関する小説の流行という現象について調べている。その作業の中で、今は名前を忘れ去られてしまったような作家たちの意外なつながりが見えてきた。それを踏まえて、現在主流となっているオーソドックスな文学史とは違った文学史が提示できるのではないかという予感がしている。

その他、文学の中の雪に関する表現を通して過去の積雪量を推定する研究[3]も他大学や高専の教員と共同で行っている。

[1]千葉幸一郎, 「子を貸し屋」論, 大正文学 6, 2002

[2]千葉幸一郎, 木下杢太郎の詩における〈黒〉, 大正文学 7, 2005

[3]松村光太郎他, 文学表現による過去の積雪量の推定に関する一考察 ～その1雪のイメージに関するアンケート調査～, 小山工業高等専門学校研究紀要第 36 号, など

提供可能な技術

- 文学作品の読書会
- 百人一首の解説と競技かるたの実践指導